



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第
5号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第5号). 泌尿器科紀要 1960, 6(5): 424-424

ISSUE DATE:

1960-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111937>

RIGHT:

編 集 後 記

関西医科大学にては従来は皮膚科泌尿器科教室であつたが、今年4月から泌尿器科が独立し、助教授であつた新谷浩博士が教授に就任せられた。斯学のために同慶に堪えない。



本年の日本泌尿器科学会総会は4月初めに行われた。それに先立つて総合研究班会議、理事会、評議員会等が行われた。班会議には十分な時間を費して、研究報告や今後の方針が議せられ、理事会も十分な時間が当てられて種々の問題が討議せられた。次で評議員会が開かれて、定例的な議事報告の他に、総合研究班の事、国際泌尿器科学会の事が報告せられ、三矢氏より健保点数に就ての発言が為された。然しそれらの問題の他にも、泌尿器科独立の事、専門医制度の事、評議員の構成の事等、論すべき重要案件があるに拘らず、何らの意見開陳も討議も行われず、全く低調なものであつた。これはいかなる理由によるのであろうか。唯、昭和37年の50周年記念総会の募金に関連して、事業計画と予算に就ての質問があつたのは当然であつた。

学術大会は極めて盛大で、未曾有と云つてもよく、600名程が参加したのではないと思われた。特別講演5題、宿題報告1題、その他に外科、整形外科学会との共同研究の特別講演、シンポジウム5題があつたが、どの1題といえども、内容の充実した、努力の結晶と思われるもので、深い感銘を与えられた。結局、勉強する事が一番強いという事を痛感させられた。一般演説も、いずれも意義大なるものであつたが、特別講演或はシンポジウムの形式に重点を置かれた今回の総会は、所期の目的を収めたものと思われる。

懇親会なども盛会を極め、大阪ならではと思わせられたが、阪大教室員諸氏の労力はたいへんであつたろうとお察すると共に厚く感謝する次第である（昭和35年5月）

購 読 要 項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都4772番泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。